

スマイスター 中古住宅譲れない条件

価格と周辺環境が決め手

購入経験者は23%止まり

を運営するリビン・テク
ノロジーズ（東京都中央区、川合大無社長）は10月23日、国土交通省などが定めた毎年10月のリデユース・リユース・リサイクル推進月間に合わせて「中古住宅購入時に譲れない条件」について調査した。

同サイトを利用した20歳以上の男女525人を対象に調べたところ、中古住宅の買いの決め手として価格と周辺環境にあることが改めてわかった。

を購入したことがあるか？」を聞いたところ、「ある」は23・0%で、「ない」が77%だった。中古住宅を購入した人に住宅のタイプを聞いたところ、「戸建て」が65・3%となり、「マンション」が34・7%となった。中古住宅購入で最も譲れない条件として「価格」（31・4%）が一番高く、次いで「周辺環境」（12・4%）、「売り主の信頼度」と「所在地」（共に9・9%）となった。2番目に譲れない条件でも「価格」（21・5%）が最多となり、「周辺環境」（17・4%）、「所在地」（9・9%）と続いた。

34・7%、「持ち家マンション」（16・5%）、「戸建て賃貸」（7・4%）、「賃貸アパート・マンション」（25・6%）、「社宅・官舎・寮」（6・6%）、「実家」（9・1%）と5割の人が買い替えであることがわかった。

「居住目的で中古住宅を買い替える前の住居は、51・6%が売却と回答した。次いで「家族が居住」（19・4%）、「賃貸として活用」と「空き家として放置」（共に8・1%）、「親が居住」と「空き家として管理」（ともに4・8%）だった。

不動産関連の比較査定サイト「スマイスター」

「居住目的で中古住宅

まいは、「持ち家戸建て」